

平成25年度

産業廃棄物不法投棄現場 現場内及び現場周辺環境モニタリング調査

調査結果中間報告 (概要版)

平成25年11月

岐阜市 環境事業部 産業廃棄物特別対策課
自然共生部 自然環境課

産業廃棄物不法投棄現場 現場内モニタリング調査結果総括（平成25年上半期分）

1 業務の目的

本調査は、岐阜市北部地区に不法投棄された産業廃棄物によって、周辺環境に与える影響を継続的に調査し、それらの異変を速やかに把握し、敏速な対策に資すること、ならびに支障除去事業による影響を監視することにより、人の健康を保護し生活環境を保全することを目的とするものである。

2 現場内モニタリング調査項目

調査対象	調査の目的	評価対象とした基準	調査地点	調査場所の選定理由	
水	地下水	地下水の水質や状況を調査し、廃棄物による影響の程度を把握する	環境基準	観測井戸 BW-01、BW-02 BW-05、BW-06、BW-07、BW-08	緊急調査、詳細調査及び対策事業期間で設置した地下水調査地点を選定 BW-01・BW-02は、沢筋に近く場外へ流下する直近の井戸を選定 BW-05～BW-08は、現場内の地下水動向を把握すべく設置した井戸
		地下水の水位・水温・電気伝導率を常時観測し、雨量の他、対策工事後の地下水の変動の程度を把握する	—		
	沢水	不法投棄廃棄物の上下流の水質を調査し、廃棄物による影響の程度を把握する	環境基準	沢水 SW-1	—
	保有水	下流止水壁からの揚水等を観測し、廃棄物による影響の程度を把握するとともに、水処理施設の維持管理をする	—	止水壁揚水 PW-1	下流部止水壁に付随する揚水井戸の保有水等が集まる地点を選定
下水道排水	処理後の水質や状況を調査し、現場から下水道への排水を監視する	下水排除基準	処理水貯留池 PW-4	下水道へ排水する直近の箇所を選定	
土	敷地境界	大気中の浮遊粒子状物質(表土など)が降下することによる土壌の汚染状況を把握する	土壌汚染対策法指定基準	試験土壌 S-5	住居等が近く、影響が現れやすいと思われる東側境界付近を選定
大気	敷地境界	ダイオキシン類や悪臭物質(アンモニア、硫化水素、メチルメルカプタン)の発生の状況を把握する	規制基準、環境基準	東側敷地境界 A-0、A-5	住居等が近く、影響が現れやすいと思われる東側境界付近を選定
	現場内	悪臭物質(アンモニア、硫化水素、メチルメルカプタン)の発生の状況を把握する	規制基準	現場内 A-4	現場内で影響が現れやすいと思われる中腹の谷筋を選定
		現地踏査により、現場内のガスの状況を監視する	—	現場内全域	—
モニタリング孔	温度	モニタリング孔の内部温度を調査し、廃棄物の状況を把握する	—	モニタリング孔 G-1～G-34、N-1～N-10	対策事業期間に、現場内の地中状況を把握すべく設置した観測孔を選定
	ガス	モニタリング孔の内部及び発生ガスを調査し、廃棄物の状況を把握する	—	モニタリング孔 G-1～G-34	
気象	雨量、風向・風速 気圧・気温	現場の気象状況と各調査の結果から、関係性と影響の程度を把握する	—	—	現場の気象状況を把握するため、現場内に各観測計を設置

3 現場内モニタリング調査結果の総括

調査対象	基準項目	総括評価	今年度の傾向、その他事項
地下水	環境基準項目	全ての項目において、 地下水環境基準に適合 している。過去の地下水調査と比較しても大きく変化していない。	これまでとほぼ同様な傾向を示している。
	その他の項目	全ての項目において、過去の地下水調査と比較しても大きく変化していないことから、特に 問題は認められない 。	
	—	地下水位の動向は、BW-01とBW-08は降雨の影響をあまり受けない。それ以外は、変化は認められるが、大きなものではない。電気伝導率の動向は、BW-01とBW-02は対策工事以前と同様な安定した傾向が認められる。	特に問題は認められない。
沢水	環境基準項目	当該調査のバックグラウンドとなるもので、 水質環境基準に適合 している。特に問題となる数値はない。	これまでと同様な傾向を示し、大きな変化は見られない。
	その他の項目	当該調査のバックグラウンドとなるもので、特に 問題となる数値はない 。	
保有水	—	全ての項目において、特に 問題は認められない 。ほとんどの項目は安定した数値である。	これまでと同様な傾向を示し、大きな変化は見られない。
下水道排水	下水排除基準項目	全ての項目において、 下水排除基準に適合 している。	特に問題は認められない。
土壌	含有量基準項目	試験土壌設置後、数値に変化は認められない。(平成24年度までの結果)	今年度は、平成26年1月に調査を予定している。
大気	環境基準項目 規制基準項目	ダイオキシン類・悪臭物質ともに、いずれの地点においても、それぞれの 基準に適合 している。	特に問題は認められない。
	その他の項目	現場への入場時に携行するガス検知器において、これまで 異常は感知されていない 。	
モニタリング孔	—	内部での温度変化は、いずれの地点においても一定で、 急激な変化は認められない 。	特に問題は認められない。
	—	ガスの発生量は低量であり、大きな変動は見られない。ガス分析結果からも、特に 問題は認められない 。	

産業廃棄物不法投棄現場 現場周辺環境モニタリング調査結果総括（平成25年上半期分）

1 業務の目的

本調査は、岐阜市北部地区における産業廃棄物不法投棄事案特定支障除去等事業対策工事完了後の周辺環境への影響を監視することを目的としたものである。

2 現場周辺環境モニタリング調査項目

調査対象	調査の目的	評価対象とした基準	調査地点	調査場所の選定理由	
水	地下水	地下水の汚染状況を把握し、現場内からの影響を確認する	環境基準・河川B類型基準・農業用水基準	観測井戸 GW-1 GW-5	現場からの旧谷筋、原川流域の中央付近(GW-1 -5)を選定する
	河川水	場内排水等による河川水汚染状況を把握し、現場内からの影響を確認する	環境基準・河川B類型基準・農業用水基準	原川の上流 RW-4 ・下流 RW-5	現場排水口の前川の上流域、下流域を選定する
	排水	現場排水の汚染状況を把握し、現場内からの影響を確認する	排水基準（参考値）	場内浸出水 D-1 調整池排水 D-2 D-3	現場から原川に放流される排水口を選定する
	河川底質	現場排水による汚染状況を把握し、現場内からの影響を確認する	土壌含有量基準（参考値）	現場排水の前川上流 RS-1 下流 RS-2	現場排水口の前川の上流部と下流部を選定する
土	土壌	粉塵による周辺土壌の汚染状況を把握し、現場内からの影響を確認する	土壌含有量基準・環境基準	周辺住居 S-3	現場直近の居住地を選定する
大気	ダイオキシン類	汚染物質の飛散拡散状況を把握し、現場内からの影響を確認する	環境基準	周辺住居 A-3	現場直近の居住地を選定する

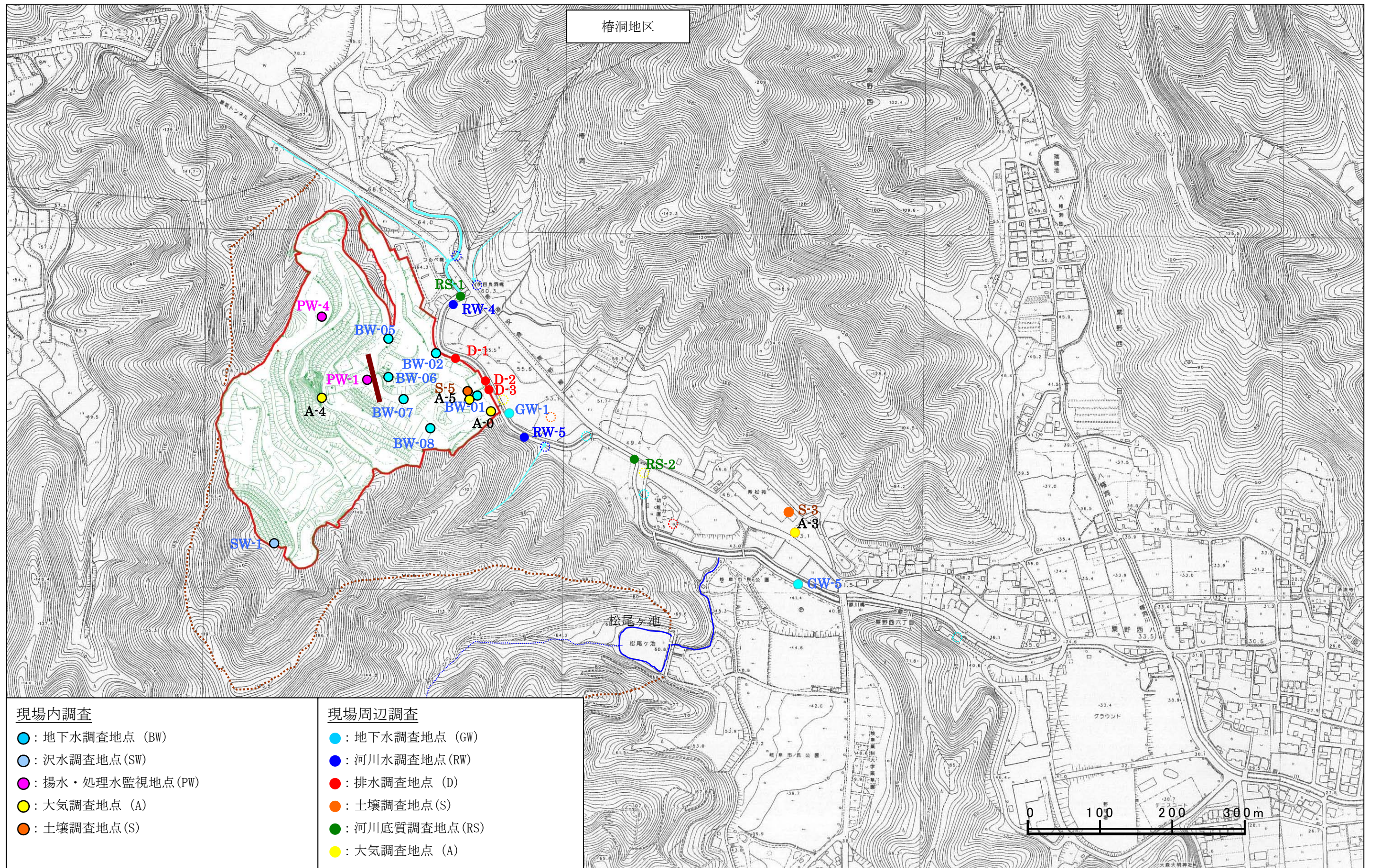
3 現場周辺環境モニタリング調査結果の総括

調査対象	基準項目	総括評価	今年度の傾向、今後の課題
地下水	環境基準項目	実施した項目は、全て地下水環境基準に適合していた。大きな水質の変動もない。	これまでの水質濃度と同様な傾向を示し、イオン組成も大きな変化は見られない。 対策工事後の現場内からの周辺への影響は認められない。 引続き、監視を行うものとする。
	生活環境・監視項目	水質濃度に大きな変化は見られなかった。不法投棄現場からの有機性汚濁による影響は、地下水のBOD、COD、TOC濃度からは認められない。GW-1の水質変動の要因は、これまでの変動の様子から、降雨による一次的な変動を示すものであり、特に河川水による影響と思われる。	
河川水	環境基準項目	実施した項目は、全て河川環境基準に適合していた。大きな水質の変動もなく、問題となる数値は見られない。	河川水は、これまでの水質濃度と同様な傾向を示し、大きな変化は見られない。 水質濃度は、RW-4⇔RW-5の関係にあり、イオン組成も大きな変動は見られない。 対策工事後の現場内からの周辺への影響は認められない。 引続き、監視を行うものとする。
	生活環境・監視項目	実施した項目からは、直ちに問題がある数値は認められない。 河川水の水質は、降雨による影響で一時的な変動があるものの、昨年度に引き続き大きな変動は見られない。	
排水	環境基準項目	実施した項目は、比較参考とした排水基準に適合していた。	排水D-1は、これまでの水質濃度と同様な傾向を示し、大きな変化は見られない。 排水D-2は、降雨時以外に水量がない。 排水D-3は、pHに基準値超過がみられるが、その原因は水路に付着した藻類の光合成によるものと考えられ、河川への影響は大きくない。 対策工事後の現場内からの周辺への影響は認められない。 引続き、監視を行うものとする。
	生活環境・監視項目	排水は、降雨による場内整形盛土への雨水浸透の影響で、水質濃度に変動が見られるものの、比較参考とした排水基準に適合していた。	
河川底質	含有量基準項目	実施した項目は、比較参考とした土壌汚染対策法の土壌含有量基準に適合していた。現場内からの影響は特にないと考えられる。 河川底質は、長期における河川の状況を把握するものであるが、排水放流による影響は認められない。	過年度までと同様な数値を示し、変化は認められない。 対策工事後の現場内からの周辺への影響は認められない。 引続き、監視を行うものとする。
土壌	含有量基準項目	調査地点 S-3において、試験土壌設置後の数値に大きな変化はなく、粉塵降下の影響は認められない。（平成24年度までの結果）	平成26年1月実施予定
大気	環境基準項目	ダイオキシン類は、大気環境基準に適合していた。	過年度までと同様な数値を示し、変化は認められない。 対策工事後の現場内からの周辺への影響は認められない。 引続き、監視を行うものとする。

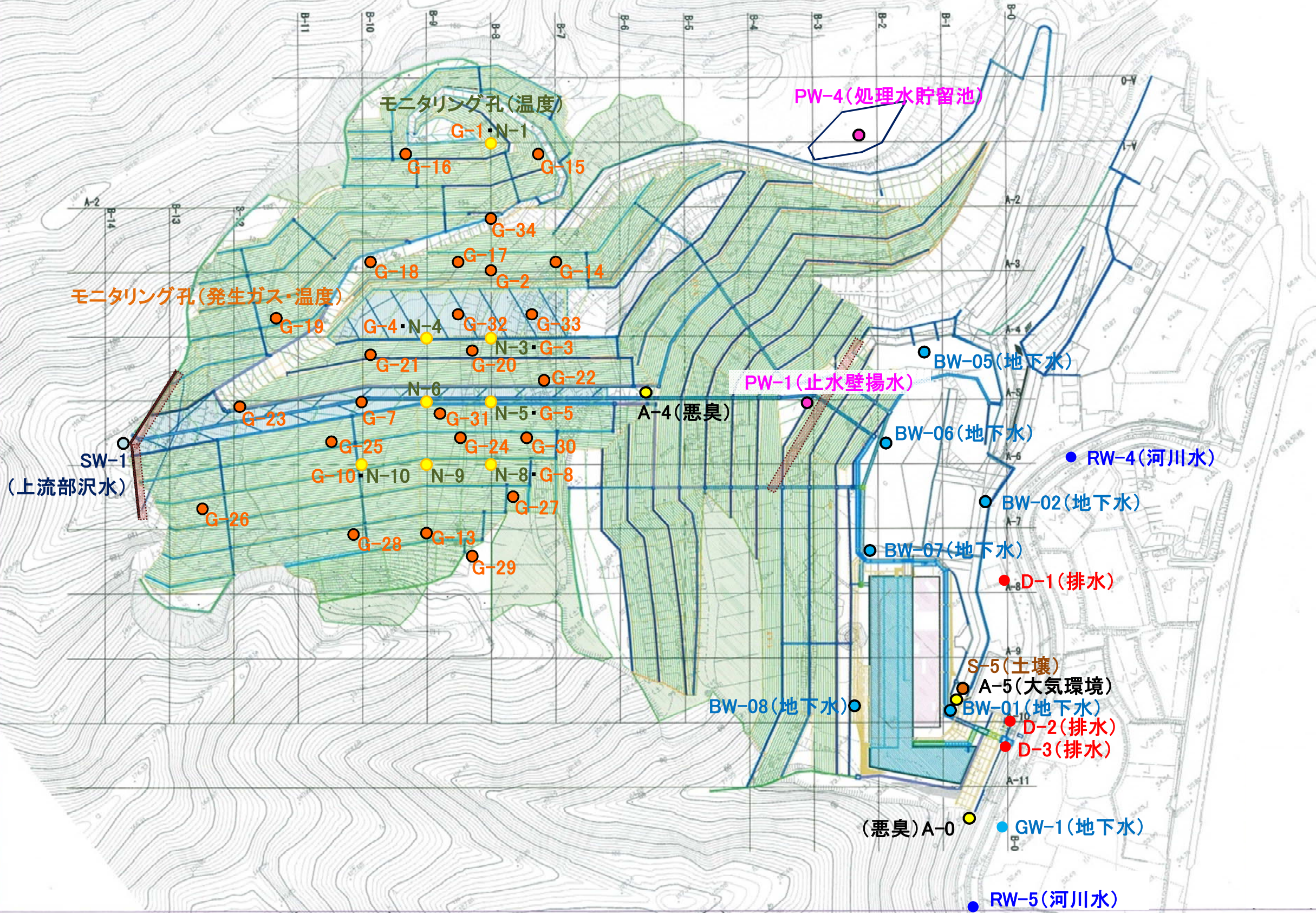
総合評価

現場内及び現場周辺ともに、水、大気、土壌等、環境基準に適合している。支障除去事業における対策工事が完了し、生活環境の保全上の支障が生じていない状態が継続しており、問題となる周辺への影響は特に認められない。
今後も当面の間、環境への影響を監視する。

モニタリング調査位置図



モニタリング調査位置図



- 上流部沢水 (SW)
- 揚水・処理水 (PW)
- 地下水 (BW, GW)
- 河川水 (RW)
- 排水 (D)
- 発生ガス・内部温度
- 悪臭、臭気、大気環境 (A)
- 土壌 (S)

モニタリング孔(温度)

G-1・N-1

PW-4(処理水貯留池)

モニタリング孔(発生ガス・温度)

PW-1(止水壁揚水)

SW-1
(上流部沢水)

A-4(悪臭)

BW-05(地下水)

BW-06(地下水)

RW-4(河川水)

BW-02(地下水)

BW-07(地下水)

D-1(排水)

S-5(土壌)

A-5(大気環境)

BW-01(地下水)

D-2(排水)

D-3(排水)

BW-08(地下水)

(悪臭)A-0

GW-1(地下水)

RW-5(河川水)